

# 地域とかかわりをもった駅

## ～野々市駅×小さなギャラリー～

### 目指す駅

本来の駅の姿とは、情報交換の場であったり、人々の交流の場として街の顔であった。

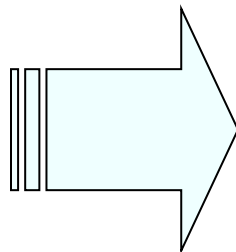
↓目指す駅とは

駅舎内を小さなギャラリーとし、展示パネルを設ける。この小さなギャラリーが人々の交流を生む装置となる。それにより地域とつながりをもった駅が誕生する。



### 現状

鉄道の発達により駅はコストや機能面が重要視され、地域の文化性が薄れ同じ表情をした駅が増加した。



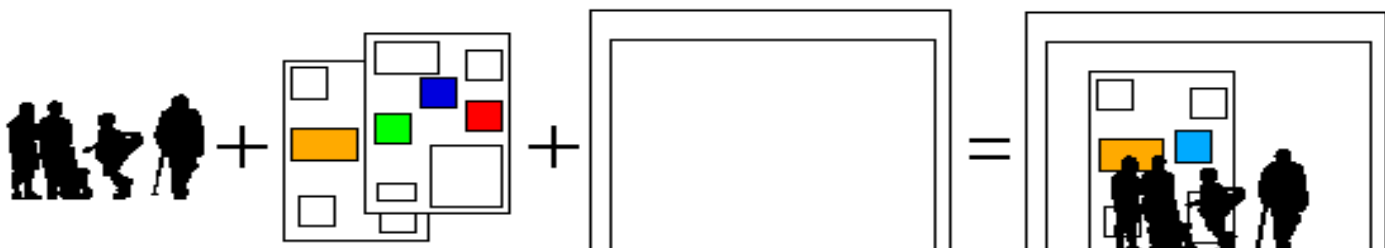
### ・ファサードデザインの構成

人々の活動

展示パネル

建物の骨格

アクティビティーをデザインしたファサード



### ファサードパターン

空間を分割することで、いくつかの小空間ができる

展示パネルの間に必要に応じて待合室ができる

曲面を利用することで、変わった表情をみせる

ギャラリーと機能とを区分することで、2つの空間ができる

### ・動く壁

展示パネルを仮設的なものとして取替えがきくようにして、季節や展示内容に応じて配置換えができるよう可動式にする。

### ・まとめ

小さなギャラリーという機能が地域とのつながりをつくり、人々の交流を促進する装置となる。これにより野々市町の顔となるような新しい駅の形ができる。

金沢工業大学	
2007年度 工学設計 II	
プロジェクトテーマ	: 地域とつながりをもった駅
クラス番号	: VA305
チーム番号	: 4
チーム名	: 野々市町
チームメンバー名	: 西ヶ谷 知里 袴田 隼也 肥後 雄一郎 藤本 泰巨 増田 麻実 矢作 友規
担当教員名	: 下川 雄一